# 泉州二次医療圏「地域医療構想」の現状と課題

資料2-1

## 1　病床機能別の状況

| | 病床の現状 | 患者受療・医療機能状況（NDB） | 今後の検討事項 |
|---|---|---|---|
| 高度急性期<br>｜<br>急性期<br>（急性期一般） | 多くの入院料において人口10万人当たりの病床数は府平均より低くなっているが、病床稼働率は府平均より高くなっている | 救命救急入院料をはじめとする各入院料における自己完結率は高い一方、入院基本料（7対1）等において、流出超過の傾向がみられる | 今後の医療需要増加に対応していくためには、他圏域との流出入状況等に留意し、急性期の医療提供体制の在り方について検討していく必要がある |
| 急性期<br>（地域急性期）<br>｜<br>回復期 | 回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟入院料において人口10万人当たりの病床数は、府平均より高く、一般病棟15対1・特別、地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料における病床稼働率は府平均より高くなっている | すべての入院料や、肺炎・大腿骨頚部骨折等の入院の自己完結率は約9割と高いが、回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟入院料・地域包括ケア病棟では流出超過傾向が見られる | 多くの入院料において、病床稼働率が府平均より高いため、今後の医療需要増加に対応していくためには、医療提供体制の在り方について検討していく必要がある |
| 長期療養（慢性期） | 多くの入院料において、人口10万人当たりの病床数は府平均より多い | 障害者施設等入院基本料以外の入院料において、自己完結率が8割以上でSCRも高くなっている | 今後の需要に対応した病床機能分化を図っていくために、療養病床の介護施設への転換状況等にも留意し、検討していく必要がある |

## ２　第1回大阪府泉州医療・病床懇話会での意見

### 指標について

◆　2025年に向け、回復期（サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ）機能への転換が必要と考えられる病床を指標にする。

◆　高度急性期・急性期病床数は他の圏域に比べて少なく、病床稼働率は極めて高い。
今後はこの点も考慮し、急性期から回復期への病床転換については、慎重に検討すべきである。